

2019年3月6日

報道関係各位

 SMBCコンシューマーファイナンス株式会社  
 広報CSR部:尾形・佐藤綾花  
 (問合せ先:03-3543-7360)

## 30代・40代の金銭感覚についての意識調査 2019

30代・40代の消費スタイル “買える範囲で良いものを選びたいけど20代ほど頑張らない”  
 “身の丈消費”を志向する30代・40代は20代と同水準も、“調べ尽くし消費”を実践する人は20代より低い傾向  
 働き方改革の影響？ 30代・40代ビジネスマンの半数以上は、退社後寄り道をする“フラリーマン”  
 フラリーマンの寄り道出費 平均額は1.1万円/月  
 夫はプレッシャー 夫の転職で妻が期待する年収アップ額は平均69万円

SMBCコンシューマーファイナンス株式会社(代表取締役社長:幸野 良治、<http://www.smbc-cf.com>)は、2019年1月7日～9日の3日間、30歳～49歳の男女を対象に「30代・40代の金銭感覚についての意識調査2019」をインターネットリサーチで実施し、1,000名の有効サンプルの集計結果を公開しました。(調査協力会社:ネットエイジア株式会社)

- TOPICS -

### 【30代・40代のお小遣い・貯蓄事情】

- ▶ 30代・40代のお小遣い額 平均は3.1万円/月、昨年から微増
- ▶ 貯蓄から消費へ？ 30代・40代の貯蓄額「貯蓄ゼロ」は昨年比6ポイント上昇、平均額は52万円減少
- ▶ リタイアまでに貯蓄がいくらあれば安心？ 40代では平均5,473万円、20代より1,447万円高い結果に
- ▶ フリマアプリは個人の“プチ収入源”に 30代出品経験者の年間売上高は平均43,931円で20代や40代を上回る

### 【30代・40代の消費意識と消費実態】

- ▶ 30代・40代の消費スタイル “買える範囲で良いものを選びたいけど20代ほど頑張らない”  
 “身の丈消費”を志向する30代・40代は20代と同水準も、“調べ尽くし消費”を実践する人は20代より低い傾向
- ▶ 「エンカル消費」に対する意識 男性は30代・40代より20代が前向き、女性は30代・40代のほうが前向き
- ▶ “こだわり消費”に積極的な30代・40代は8割近くに及ぶも20代よりは低い傾向
- ▶ 30代・40代では男性の4割強、女性の6割半が美容やファッションなど「自分磨き」にお金をかけたいと回答
- ▶ 20代よりスピーディーにキャッシュレス化が進行 30代・40代ではキャッシュレス派が多数派に
- ▶ QRコード決済アプリを利用する30代・40代は今後増える？ 4人に1人が「使っていないが使いたい」と回答
- ▶ 酔った勢いでポチッと？ 30代・40代の酒酔いによる買い物での“大失敗”額は平均5.7万円
- ▶ 30代・40代スマホゲームユーザーの1割が有料サービスを利用 ガチャなどに使っているお金 平均4.3千円/月
- ▶ ファミコン世代がeスポーツを盛り上げる？ パートナーとeスポーツを楽しむためにかけてもいい金額 40代の高さ突出
- ▶ 30代・40代がパートナーとの旅行にかけたいお金 2人分の平均額7.1万円 男性平均7.9万円 女性平均6.5万円
- ▶ 母の日のプレゼント予算の平均額 実母へのプレゼントと義母へのプレゼントの金額差が小さいのは夫

### 【消費の新潮流】

- ▶ 働き方改革の影響？ 30代・40代ビジネスマンの半数以上は、退社後寄り道をする“フラリーマン”
- ▶ フラリーマンの寄り道出費 平均額は1.1万円/月
- ▶ フラリーマンの立ち寄り先 1位「コンビニ」2位「本屋」3位「居酒屋・バー」4位「家電量販店」5位「ファストフード店」
- ▶ “フラリーマン”満喫の裏側に…妻の8割近くが、家事・育児が自分に過度に集中する“ワンオペ妻”
- ▶ ワンオペ妻の6割半が家事・育児の負担を軽減するためのサービスなどに出費 出費額の平均は6,441円/月

### 【ライフイベントと収入事情】

- ▶ 30代・40代の半数以上が「結婚しよう」と思える年収は500万円、「出産・子育てをしよう」では年収600万円
- ▶ 結婚のハードルが下がる！ 40代男性の4割近くが「年収400万円あれば結婚しようと思える」と回答
- ▶ 「年収400万円で自家用車を購入しようと思える」30代女性は半数近く、昨年比8ポイント上昇
- ▶ 「年収400万円で住宅を購入しようと思える」30代女性は2割半、昨年比12ポイント上昇
- ▶ 管理職敬遠の傾向強まる 正規雇用者の半数以上が管理職で働こうと思える年収は900万円、昨年比100万円上昇
- ▶ 転職での年収アップはいくらを期待？ 40代男性の平均は105万円
- ▶ 転職での年収ダウンはどこまで許容できる？ 3人に2人が「許容できない」、許容額の平均は18万円
- ▶ 夫はプレッシャー 夫の転職で妻が期待する年収アップ額は平均69万円  
 夫が転職で年収ダウン 妻が許容できる年収ダウン額は平均12万円
- ▶ 話題の退職代行サービス 正社員の利用意向率は14%、支払ってもいい金額は平均1.9万円

## アンケート調査結果

**【30代・40代のお小遣い・貯蓄事情】**

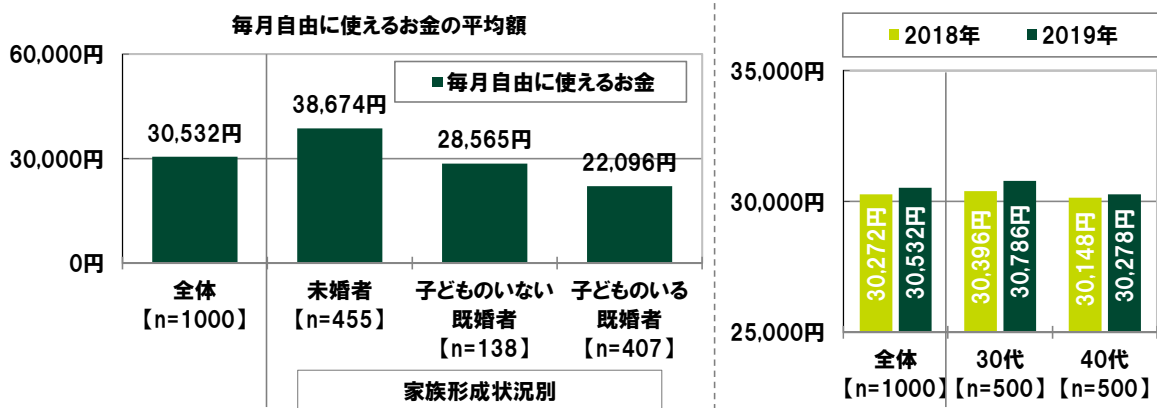
- **30代・40代のお小遣い額** 平均は3.1万円/月、昨年から微増
- **貯蓄から消費へ？ 30代・40代の貯蓄額** 「貯蓄ゼロ」は昨年比6ポイント上昇、平均額は52万円減少

全国の30歳～49歳の男女1,000名(全回答者)に対し、毎月自由に使えるお金はいくらあるか聞いたところ、全体の平均額は30,532円となりました。

家族構成別にみると、未婚者は38,674円、子どものいない既婚者は28,565円、子どものいる既婚者は22,096円となりました。

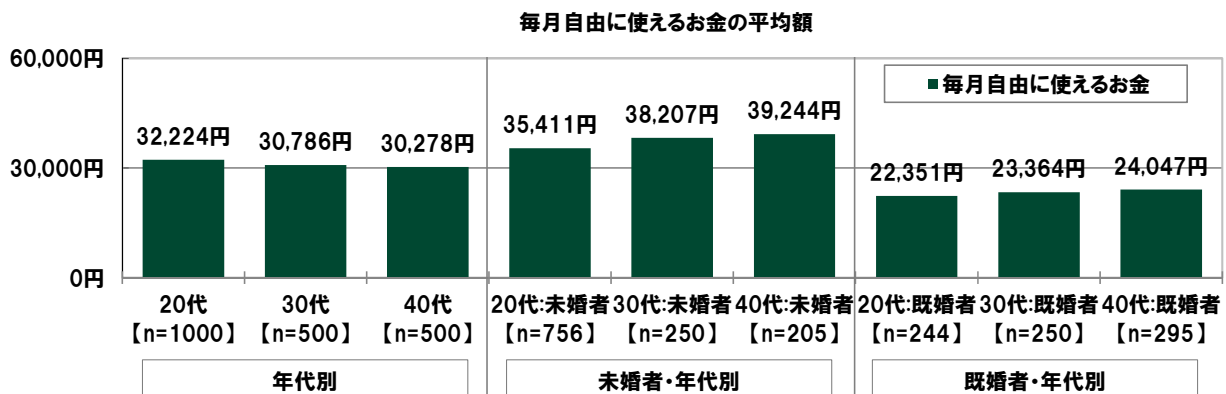
昨年(2018年)の調査(※1)と比較すると、平均額は2018年30,272円→2019年30,532円と、微増しました。お小遣い事情は、緩やかな改善がみられました。

※1: SMBCコンシューマーファイナンス「30代・40代の金銭感覚についての意識調査 2018」より



また、同様の質問を行った20代の調査結果(※2)を利用し、平均額を年代別に比較したところ、20代32,224円、30代30,786円、40代30,278円と、20代が最も高く、年代が上がるにつれて少なくなる傾向がみられました。

※2: SMBCコンシューマーファイナンス「20代の金銭感覚についての意識調査 2018」より  
以下、20代の調査結果は同調査より引用しています。



※20代の調査結果は、同様の設問で聴取した「20代の金銭感覚についての意識調査 2018」(SMBCコンシューマーファイナンス調べ)より引用

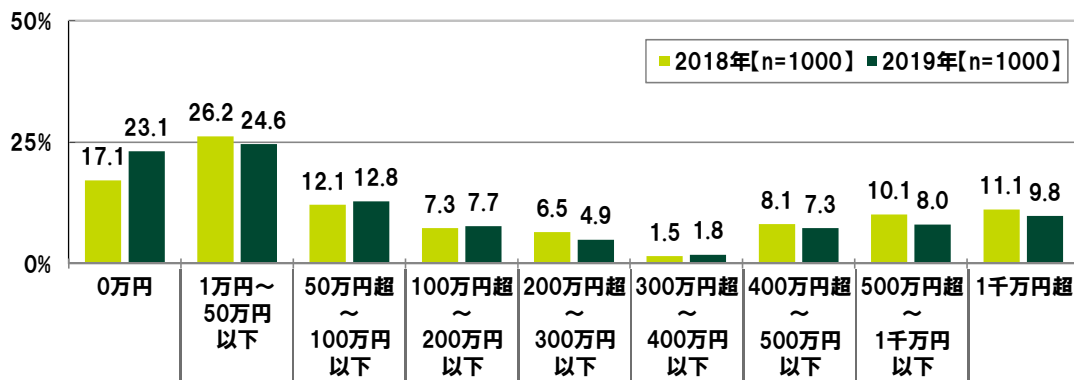
続いて、全回答者(1,000名)に、現時点で、どのくらいの貯蓄ができていないか聞いたところ、「0万円(貯蓄ができていない)」が23.1%となったほか、「1万円～50万円以下」(24.6%)にも回答が集まり、100万円以下までの合計は60.5%となりました。貯蓄額が100万円以下という人が多数派のようです。他方、「500万円超～1千万円以下」(8.0%)や「1千万円超」(9.8%)との回答もそれぞれ1割程度みられ、貯蓄額の調整平均(※3)は195万円となりました。

昨年(2018年)の調査結果と比較すると、貯蓄ができていない人(「0万円」)の割合は、2018年17.1%→2019年23.1%と、6.0ポイントの増加となりました。また、貯蓄額の調整平均は2018年247万円→2019年195万円と、52万円減少しています。貯蓄ができていない人が増え、貯蓄額が減っていることから考えると、30代・40代では貯蓄にあてるぶんのお金を消費にまわしたという人が増えたのではないのでしょうか。

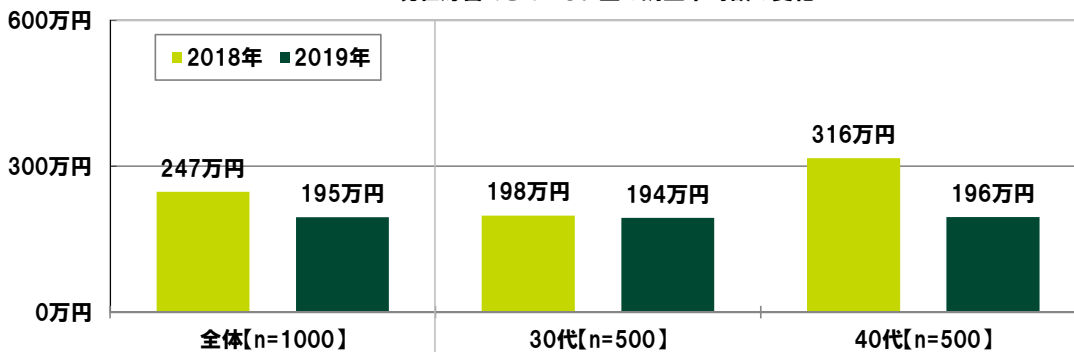
調整平均額の変化を年代別にみると、30代では2018年198万円→2019年194万円と大きな変化はみられなかったのに対し、40代では2018年316万円→2019年196万円と、120万円の減少となりました。

※3:当該設問では、上位数%のデータにみられた極端な値(貯蓄額が数千万円・数億円など)の影響を除外するため、10%調整平均(上位と下位からそれぞれ10%のデータを除外して算出した相加平均)を利用しています。

Q.現在貯蓄できているお金はいくらあるか？(数値入力回答:\_\_\_万円)



現在貯蓄できているお金の調整平均額の変化

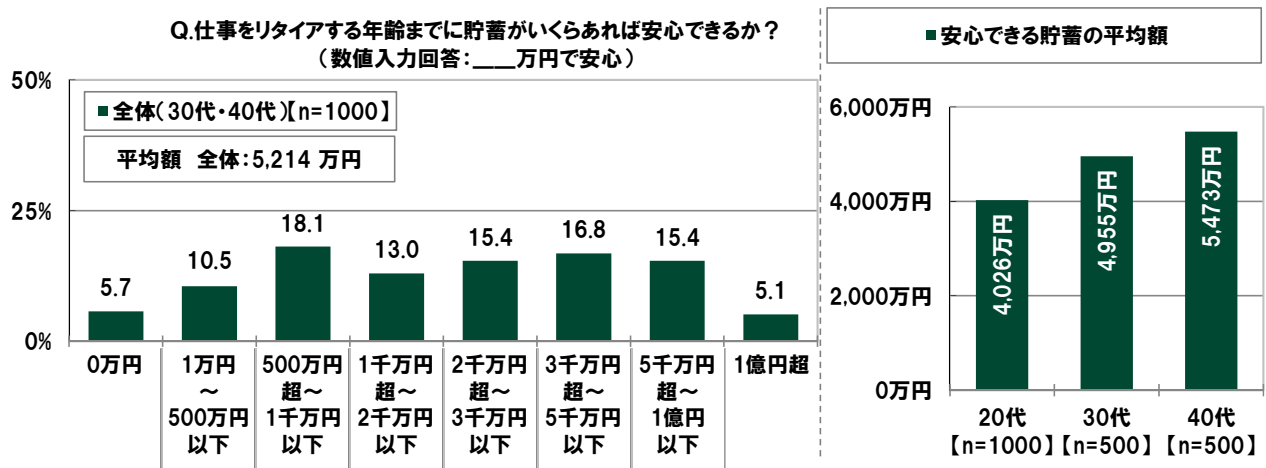


※極端な値の影響を除外するため、10%調整平均を利用(グラフのn数表示は上下10%のデータを除外する前のサンプルサイズを表示)

≫ リタイアまでに貯蓄がいくらあれば安心？ 40代では平均5,473万円、20代より1,447万円高い結果に

また、全回答者(1,000名)に、仕事をリタイアする年齢までに、どのくらいの貯蓄があれば安心だと思えるかを聞いたところ、「500万円超～1千万円以下」(18.1%)に最も多くの回答が集まったほか、「3千万円超～5千万円以下」(16.8%)や、「2千万円超～3千万円以下」「5千万円超～1億円以下」(同率 15.4%)にも回答が集まり、平均額は5,214万円となりました。

同様の質問を行った20代の調査結果を利用し、平均額を年代別に比較すると、20代4,026万円、30代4,955万円、40代5,473万円と、年代が上がるにつれて金額が高くなる傾向がみられました。老後が身近になってくるほど、老後の生活に対する不安が高まり、安心できる金額を多くに見積もる人が多くなっているのではないのでしょうか。



≫ フリマアプリは個人の“プチ収入源”に 30代出品経験者の年間売上高は平均 43,931 円で 20代や 40代を上回る

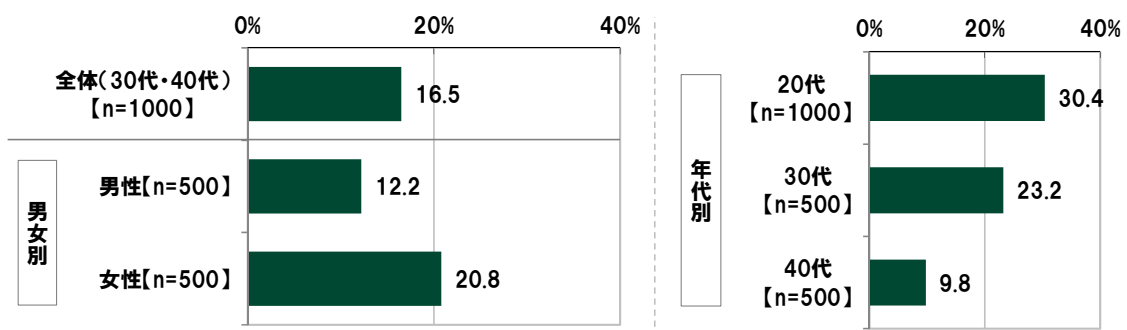
近年、フリマアプリが個人の“プチ収入源”として注目されています。

そこで、全回答者(1,000名)に、直近1年間に、フリマアプリで出品したことがあるかを聞いたところ、出品経験がある人は16.5%となりました。

男女別にみると、出品したことがある人の割合は、男性12.2%、女性20.8%と、30代・40代女性の5人に1人にフリマアプリでの出品経験があることがわかりました。

20代の調査結果を利用し、出品経験者の割合を年代別に比較すると、20代30.4%、30代23.2%、40代9.8%と、フリマアプリでの出品経験率は年代が上がるほど低くなりました。若い世代ほど、フリマアプリでの出品に積極的なようです。

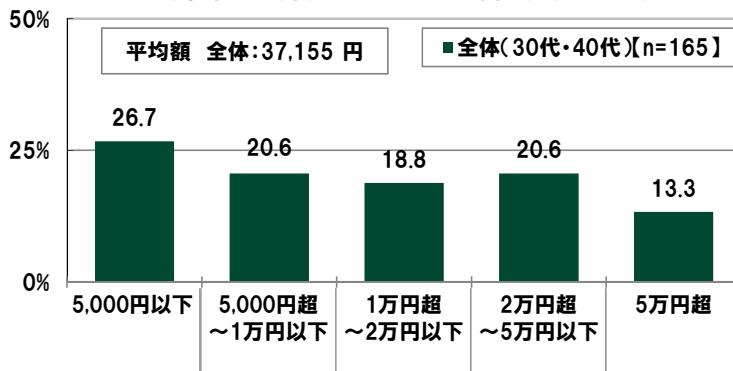
直近1年間のフリマアプリでの出品経験



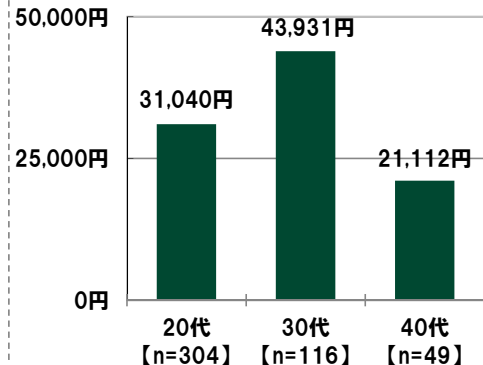
直近1年間に出品経験がある人(165名)に、直近1年間のおおよその売上高を聞いたところ、「5,000円以下」(26.7%)に最も多くの回答が集まったほか、「5,000円超～1万円以下」「2万円超～5万円以下」(同率 20.6%)にも回答が集まり、平均額は37,155円となりました。

20代の調査結果を利用し、平均額を年代別に比較すると、20代31,040円、30代43,931円、40代21,112円となりました。30代は、20代と比べて出品経験者の割合は低いものの、売上高の平均は20代を上回りました。

Q.直近1年間のフリマアプリでの出品によるおおよその売上高は？  
 (数値入力回答:直近1年間で\_\_\_\_円くらい)  
 対象:直近1年間にフリマアプリでの出品経験がある人



■直近1年間のフリマアプリでの出品による売上高(平均額)



**【30代・40代の消費意識と消費実態】**

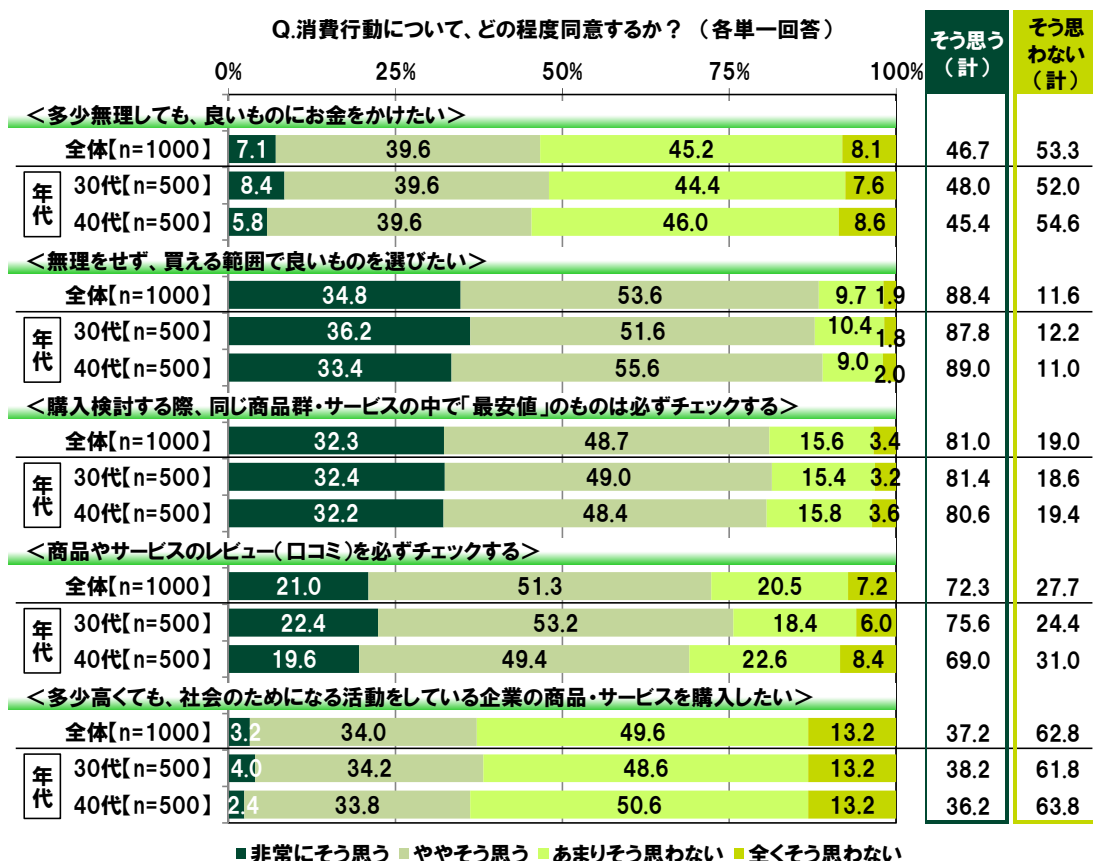
- >> 30代・40代の消費スタイル “買える範囲で良いものを選びたいけど20代ほど頑張らない”  
 “身の丈消費”を志向する30代・40代は20代と同水準も、“調べ尽くし消費”を実践する人は20代より低い傾向
- >> 「エンカル消費」に対する意識 男性は30代・40代より20代が前向き、女性は30代・40代のほうが前向き

30代・40代の消費行動には、どのような傾向があるのでしょうか。全回答者(1,000名)に、お金の使い方に関する意識について質問を行いました。

まず、<多少無理しても、良いものにお金をかけたい>では、『そう思う(計)』(「非常にそう思う」と「ややそう思う」の合計、以下同じ)が46.7%、<無理をせず、買える範囲で良いものを選びたい>では、『そう思う(計)』が88.4%となりました。良いものには出費を惜しまない“背伸び消費”より、家計状況に見合った“身の丈消費”を選択する30代・40代が多いようです。

また、<購入検討する際、同じ商品群・サービスの中で「最安値」のものは必ずチェックする>では、『そう思う(計)』が81.0%、<商品やサービスのレビュー(口コミ)を必ずチェックする>では、『そう思う(計)』が72.3%となりました。

そのほか、<多少高くても、社会のためになる活動をしている企業の商品・サービスを購入したい>では、『そう思う(計)』が37.2%となりました。

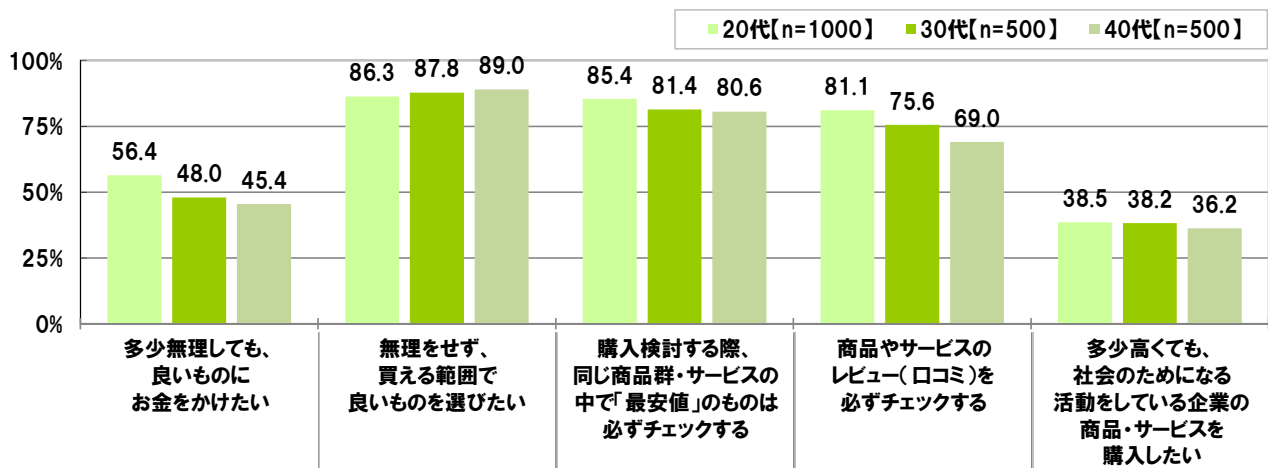


同様の質問を行った 20 代の調査結果を利用し、『そう思う(計)』の割合を年代別に比較すると、<多少無理しても、良いものにお金をかけたい>では、20 代 56.4%、30 代 48.0%、40 代 45.4%となりました。若い年代ほど、良いものに惜しみなく出費する傾向があるようです。<無理をせず、買える範囲で良いものを選びたい>では、20 代 86.3%、30 代 87.8%、40 代 89.0%と、“身の丈消費”を選択する 30 代・40 代の割合は、20 代と同水準となりました。

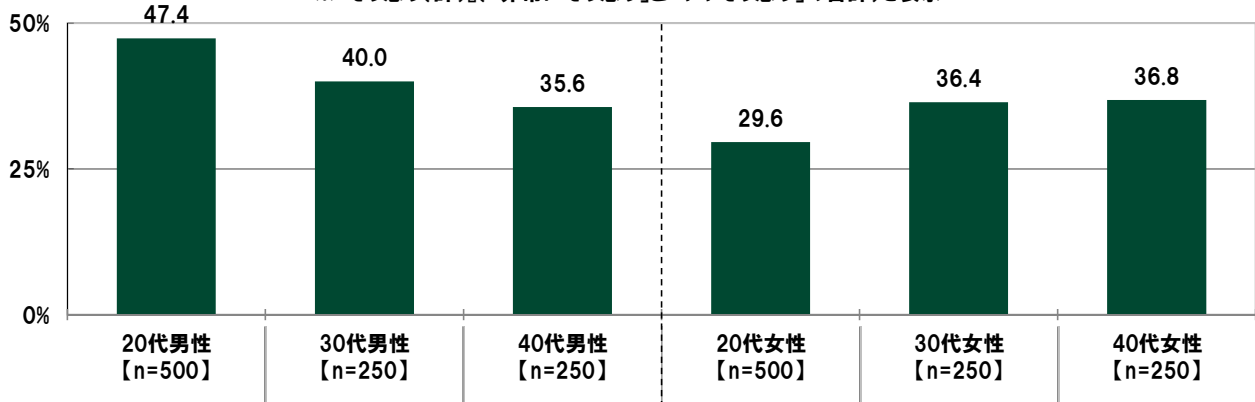
他方、<購入検討する際、同じ商品群・サービスの中で「最安値」のものは必ずチェックする>では、20 代 85.4%、30 代 81.4%、40 代 80.6%、<商品やサービスのレビュー(口コミ)を必ずチェックする>では、20 代 81.1%、30 代 75.6%、40 代 69.0%と、いずれも年代が上がるにつれ割合が低くなる傾向がみられました。無理せず良いものを購入したいと考える 30 代・40 代は 20 代と同水準でしたが、最安値チェックや口コミチェックは 20 代ほど頑張っていないようです。

また、<多少高くても、社会のためになる活動をしている企業の商品・サービスを購入したい>では、20 代 38.5%、30 代 38.2%、40 代 36.2%となりました。男女・年代別にみると、男性では 20 代が 47.4%と、30 代(40.0%)や 40 代(35.6%)と比べて高くなっているのに対し、女性では 30 代が 36.4%、40 代が 36.8%と、20 代(29.6%)よりも高く、男女で異なる傾向がみられました。社会に貢献している企業の商品を選ぶ“エシカル消費”に前向きな人は、男性では 20 代、女性では 30 代・40 代に多いことがわかりました。

消費行動について、それぞれ同意する割合  
※『そう思う(計)』(「非常にそう思う」と「ややそう思う」の合計)を表示



多少高くても、社会のためになる活動をしている企業の商品・サービスを購入したいと思う割合  
※『そう思う(計)』(「非常にそう思う」と「ややそう思う」の合計)を表示



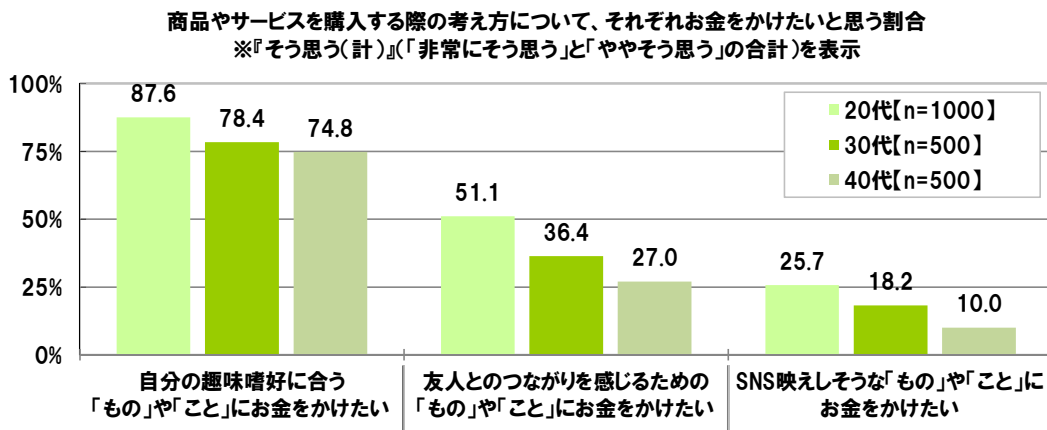
≫ “こだわり消費”に積極的な30代は8割近くに及ぶも20代よりは低い傾向

無理せず堅実なお金の使い方をする30代・40代が多いことがわかりましたが、どのような出費を重視しているのでしょうか。

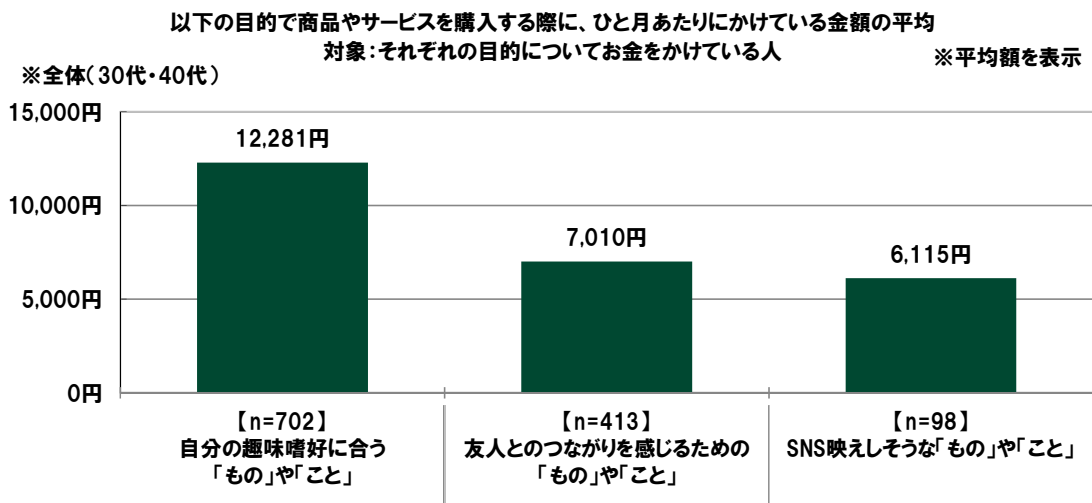
全回答者(1,000名)に、商品やサービスを購入する際の考え方について提示し、それぞれどの程度同意するかを聞きました。

同様の質問を行った20代の調査結果も利用しながら『そう思う(計)』の割合をみていくと、＜自分の趣味嗜好に合う「もの」や「こと」にお金をかけたい＞では、20代87.6%、30代78.4%、40代74.8%となりました。30代40代でも“こだわり消費”に積極的な人の割合は高いことがわかりましたが、20代よりは低い結果となりました。

また、＜友人とのつながりを感じるための「もの」や「こと」にお金をかけたい＞では、20代51.1%、30代36.4%、40代27.0%となり、＜SNS映えしそうな「もの」や「こと」(SNSに写真をアップすると目を引く「もの」や「こと」)にお金をかけたい＞では、20代25.7%、30代18.2%、40代10.0%となりました。いずれも年代が上がるにつれて、低くなる傾向がみられました。年齢が上がるにつれ、消費価値観も変わっていくようです。



次に、それぞれの消費対象に対してお金をかけている人に、ひと月あたりに使っている金額を聞いたところ、平均額が最も高かったのは、＜自分の趣味嗜好に合う「もの」や「こと」＞で12,281円、次いで、＜友人とのつながりを感じるための「もの」や「こと」＞が7,010円、＜SNS映えしそうな「もの」や「こと」＞が6,115円となりました。

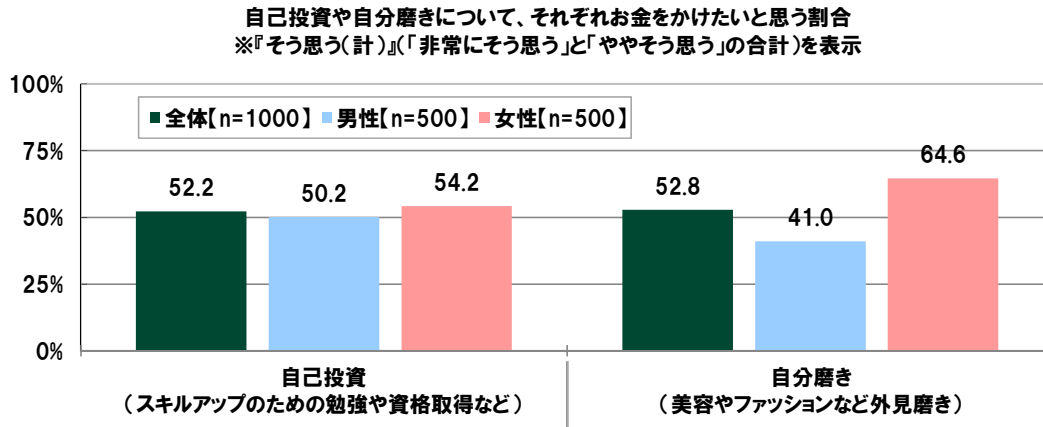




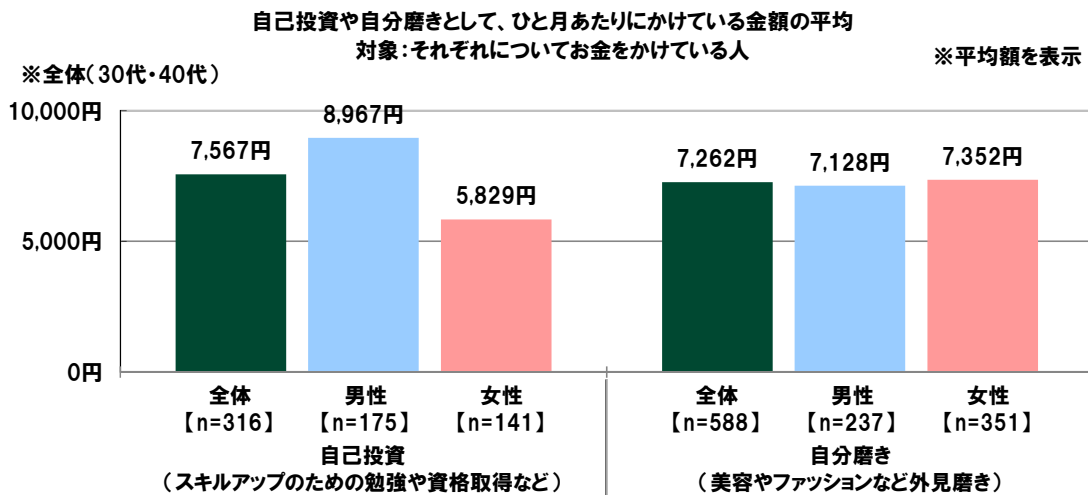
▶ **30代・40代では男性の4割強、女性の6割半が美容やファッションなど「自分磨き」にお金をかけたいと回答**

続いて、自己投資や自分磨きに対する出費についても聞いたところ、<自己投資(スキルアップのための勉強や資格取得など)にお金をかけたい>と思うかでは、『そう思う(計)』が52.2%でした。男女別にみると、男性50.2%、女性54.2%と、女性のほうがやや高くなりました。

<自分磨き(美容やファッションなど外見磨き)にお金をかけたい>と思うかでは、『そう思う(計)』が52.8%で、男女別にみると、男性41.0%、女性64.6%となりました。



それぞれの消費対象に対して実際にお金をかけている人に、ひと月あたりに使っている金額を聞いたところ、平均額は、<自己投資(スキルアップのための勉強や資格取得など)>は7,567円、<自分磨き(美容やファッションなど外見磨き)>は7,262円となりました。

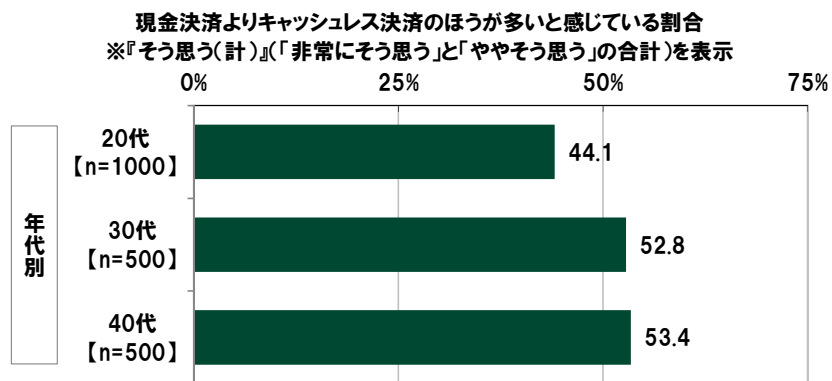
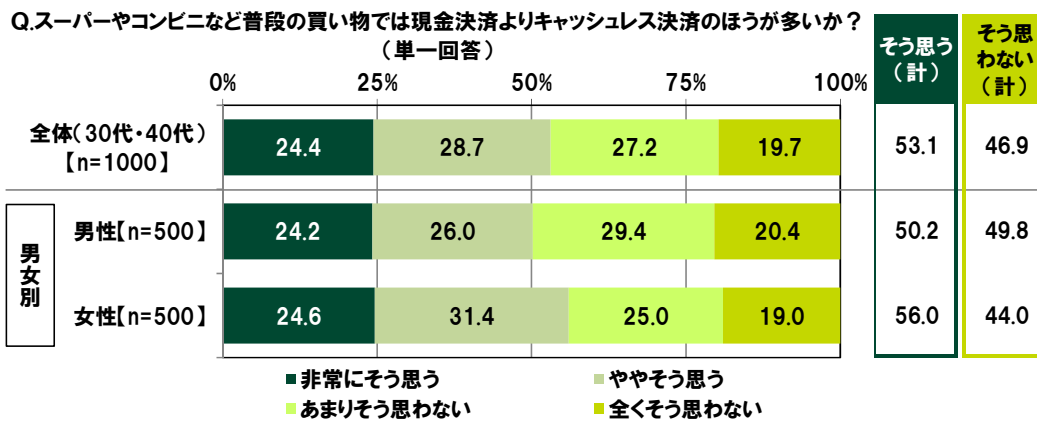


※ 20代よりスピーディーにキャッシュレス化が進行 30代・40代ではキャッシュレス派が多数派に

2019年10月の消費税増税対策の一つとして、キャッシュレス決済でポイント還元を行う施策が検討されています。

全回答者(1,000名)に、スーパーやコンビニなどでの普段の買い物では現金決済よりキャッシュレス決済のほうが多いか聞いたところ、『そう思う(計)』は53.1%となりました。30代・40代の半数超において、キャッシュレス決済を選択することが日常化しているようです。

20代の調査結果を利用し、『そう思う(計)』の割合を年代別にみると、20代44.1%、30代52.8%、40代53.4%となり、20代より30代・40代のほうが、キャッシュレス派の割合が高くなりました。



≫ QRコード決済アプリを利用する30代・40代は今後増える？ 4人に1人が「使っていないが、使いたい」と回答

近年、支払いや買い物のためのアプリが普及し、スマホでの買い物が一般化しつつありますが、30代・40代はどのくらいの方が利用しているのでしょうか。全回答者(1,000名)に、支払いや買い物に使用するアプリの利用状況について質問を行いました。

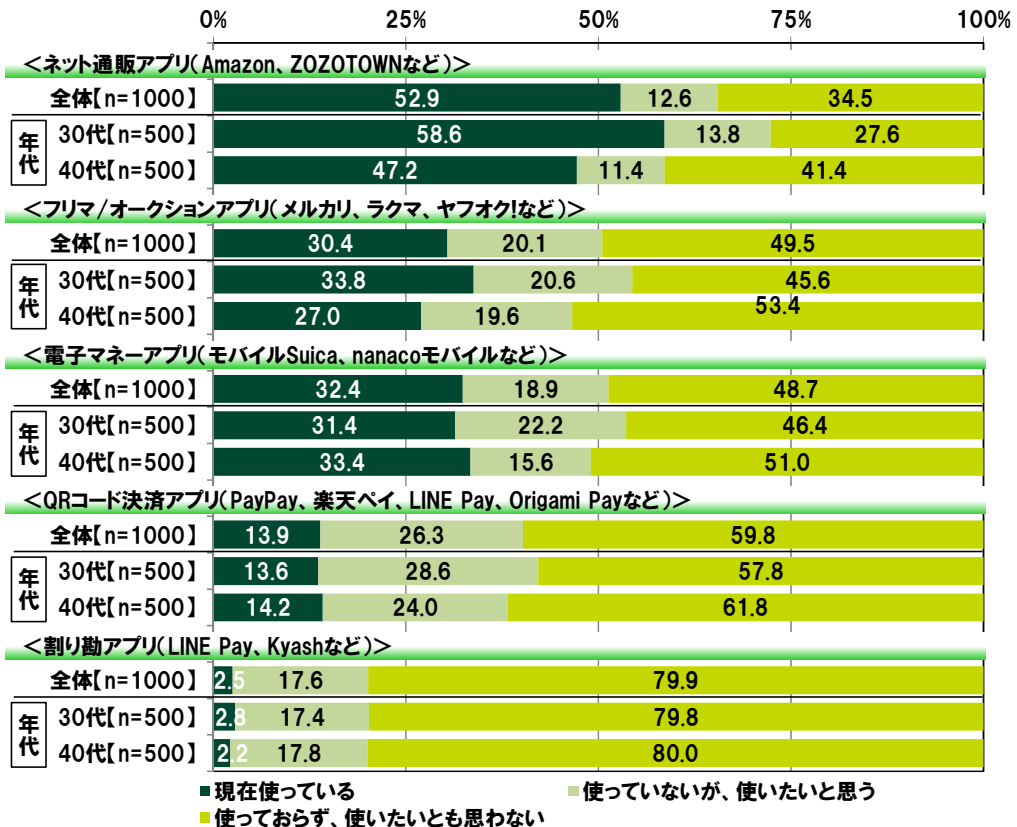
<ネット通販アプリ(Amazon、ZOZOTOWNなど)>では、「現在使っている」が52.9%、「使っていないが、使いたいと思う」が12.6%となりました。現利用者が半数以上となっており、ネット通販アプリは30代・40代の定番になっているようです。

また、<フリマ/オークションアプリ(メルカリ、ラクマ、ヤフオク!など)>では、「現在使っている」が30.4%、「使っていないが、使いたいと思う」が20.1%となり、<電子マネーアプリ(モバイルSuica、nanacoモバイルなど)>では、「現在使っている」が32.4%、「使っていないが、使いたいと思う」が18.9%となりました。フリマ/オークションアプリや電子マネーアプリの利用に前向きな30代・40代も多いことがわかりました。

他方、<QRコード決済アプリ(PayPay、楽天ペイ、LINE Pay、Origami Payなど)>では、「現在使っている」は13.9%と1割半にとどまったものの、「使っていないが、使いたいと思う」は26.3%と4人に1人の割合となりました。PayPayのキャッシュバックキャンペーンが大きな話題となっていました。QRコード決済アプリを使いたいと思いつつも、まだ使っていない30代・40代は少なくないようです。QRコード決済アプリを利用する30代・40代は今後増えていくのではないのでしょうか。

そのほか、<割り勘アプリ(LINE Pay、Kyashなど)>では、「現在使っている」は2.5%と僅かにみられる程度で、「使っていないが、使いたいと思う」は17.6%でした。電子マネーアプリやQRコード決済アプリと比べると、利用に前向きな30代・40代は少ないようです。

Q.支払いや買い物に関するアプリを使用しているか？（各単一回答）

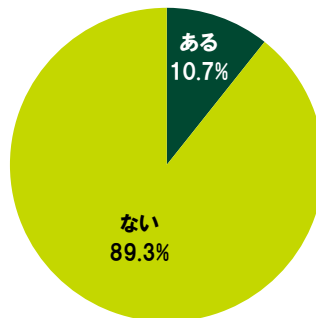


>> 酔った勢いでポチッと？ 30代・40代の酒酔いによる買い物での“大失敗”額は平均 5.7万円

キャッシュレス決済の普及に伴い、タップ一つで支払いが完了する手軽さから、お酒を飲んでいるときにスマホで眺めていた商品の購入ボタンをつい“ポチッと”押ししてしまったという人もいるのではないのでしょうか。そこで、酒酔いによる買い物の失敗について質問を行いました。

全回答者(1,000名)に、酔っ払って買い物をして失敗したことがあるか聞いたところ、「ある」は10.7%、「ない」は89.3%でした。少数派ではあるものの、酔っ払って買い物をして失敗したという人は1割いるようです。

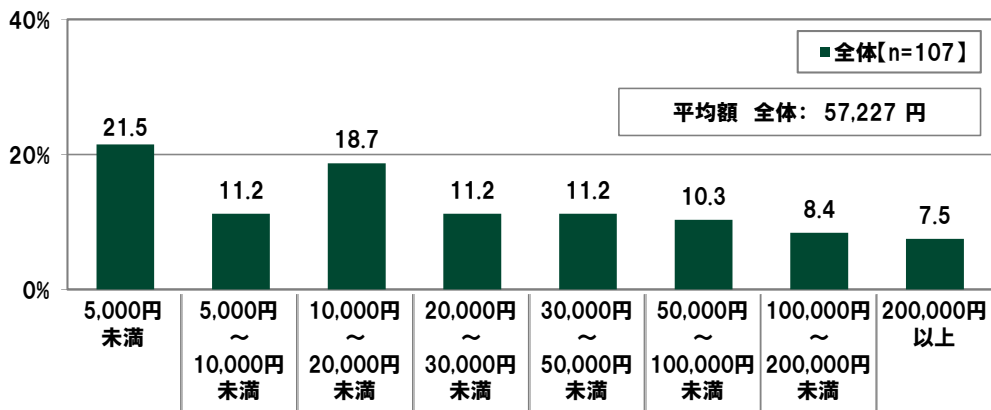
Q.これまでに、酔っ払って買い物をして、失敗したことがあるか？  
 全体[n=1000]



酔っ払って買い物をして失敗したことがある人(107名)に、最も高額な失敗の金額を聞いたところ、「5,000円未満」(21.5%)や「10,000円～20,000円未満」(18.7%)などに回答が集まったほか、「20,000円～30,000円未満」「30,000円～50,000円未満」(同率11.2%)などの回答が多くなった結果、平均額は57,227円となりました。

Q.これまでに酔っ払って買い物をして失敗したなかで、最も高額な失敗の金額は？  
 (数値入力回答：\_\_\_円くらい)

対象：酔っ払って買い物をして、失敗したことがある人

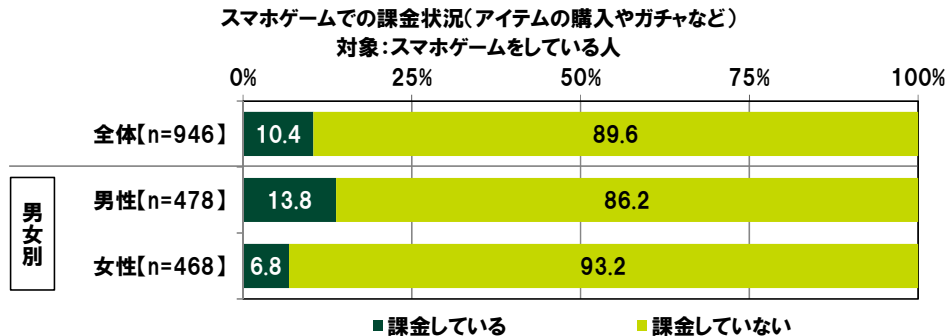


≫ 30代・40代スマホゲームユーザーの1割が有料サービスを利用 ガチャなどに使っているお金 平均4.3千円/月

また、タップ一つで支払いが完了する手軽さによって、スマホゲームでアイテムの購入などを繰り返したという人もいないのではないのでしょうか。

スマホゲームをしている人(946名)に、スマホゲームでの課金状況(アイテムの購入やガチャなど)を聞いたところ、「課金している(有料サービスを利用している)人」は10.4%と、10人に1人の割合となりました。

男女別にみると、男性13.8%、女性6.8%で、男性は女性の2倍以上の割合となりました。お金をかけてスマホゲームを楽しんでいるのは男性に多いようです。

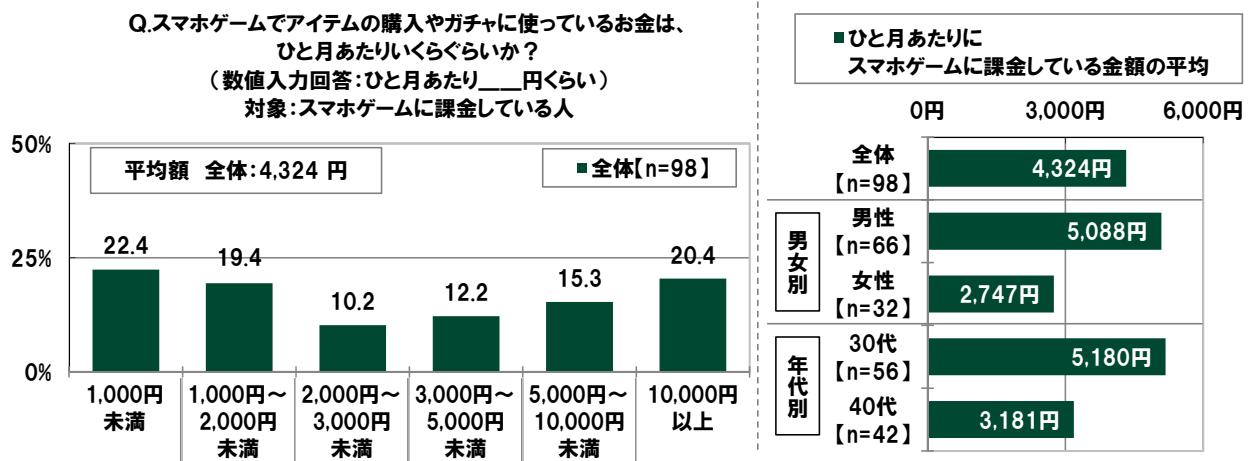


では、いくらくらいのお金をかけてスマホゲームを楽しんでいるのでしょうか。

課金している(有料サービスを利用している)人(98名)に、スマホゲームでアイテムの購入やガチャに使っているお金(課金したお金)の、ひと月あたりの金額を聞いたところ、「1,000円未満」(22.4%)に最も多くの回答が集まったほか、「1,000円～2,000円未満」(19.4%)や「10,000円以上」(20.4%)にも回答が集まり、平均額は4,324円でした。

男女別に平均額をみると、男性では5,088円と、女性(2,747円)と比べて高くなりました。

また、年代別にみると、平均額は30代5,180円、40代3,181円で、30代のほうが高くなりました。

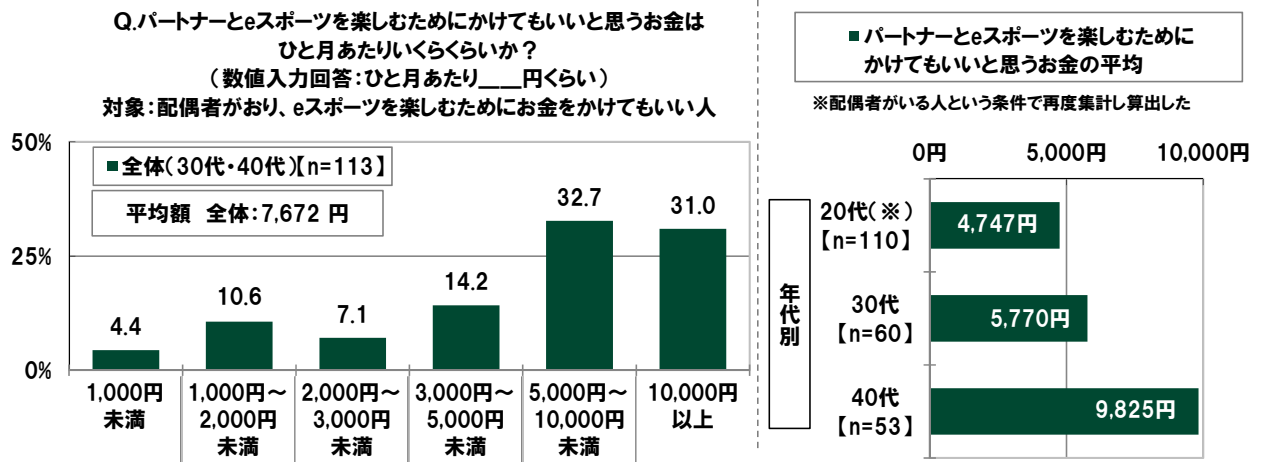


≫ ファミコン世代がeスポーツを盛り上げる？パートナーとeスポーツを楽しむためにかけてもいい金額 40代の高さ突出

アジア競技大会のメダル種目にeスポーツが認定され、eスポーツに対する注目が集まっています。そこで、eスポーツに対する意識についても聞きました。

配偶者がいる人(496名)に、パートナーとeスポーツを楽しむためにかけてもいいと思う金額を聞いたところ、お金をかけてもいいと思う人(113名)の平均額は7,672円となりました。

20代の調査結果を利用し、年代別に平均額をみると、20代4,747円、30代5,770円、40代9,825円と、40代の高さが目立ちました。40代には子どもの頃にテレビゲームに熱中したという人が少なくないと思いますが、当時を思い出しパートナーとeスポーツを楽しみたいと考える人や、子どもの頃に磨いた腕をパートナーに披露したいと考える人がいるのではないのでしょうか。



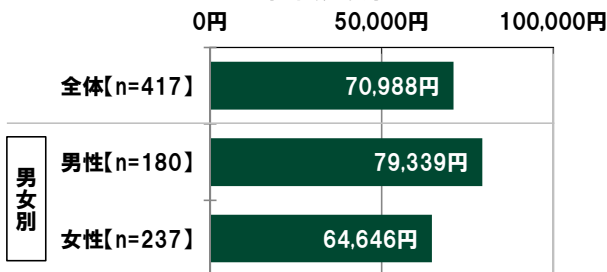
- 30代・40代がパートナーとの旅行にかけたいお金 2人分の平均額7.1万円 男性平均7.9万円 女性平均6.5万円
- 母の日のプレゼント予算の平均額 実母へのプレゼントと義母へのプレゼントの金額差が小さいのは夫

配偶者がいる人(496名)に、家族のための出費に関する意識について質問を行いました。

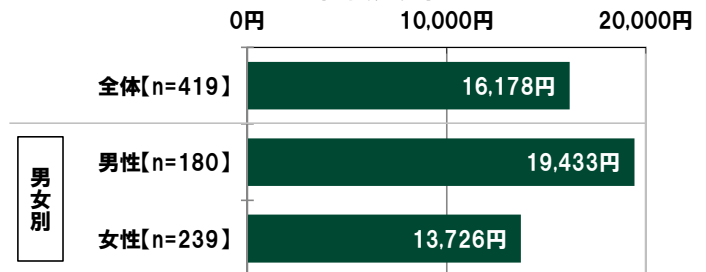
パートナーとの旅行(2人分)にかけてもいいと思う金額を聞いたところ、お金をかけてもいいと思う人(417名)の平均額は70,988円となりました。男女別に平均額をみると、男性79,339円、女性64,646円と、男性のほうが14,693円高くなりました。

また、パートナーとの記念日のディナー(2人分)にかけてもいいと思う金額を聞いたところ、お金をかけてもいいと思う人(419名)の平均額は16,178円でした。男女別にみると、男性19,433円、女性13,726円と、こちらも男性のほうが高くなりました。

パートナーとの旅行(2人分)にかけてもいいと思うお金の平均  
(数値入力回答:1回あたり\_\_円くらい)  
対象:配偶者がおり、旅行にお金をかけてもいいと思う人  
※平均額を表示



パートナーとの記念日のディナー(2人分)にかけてもいいと思うお金の平均  
(数値入力回答:1回あたり\_\_円くらい)  
対象:配偶者がおり、ディナーにお金をかけてもいいと思う人  
※平均額を表示

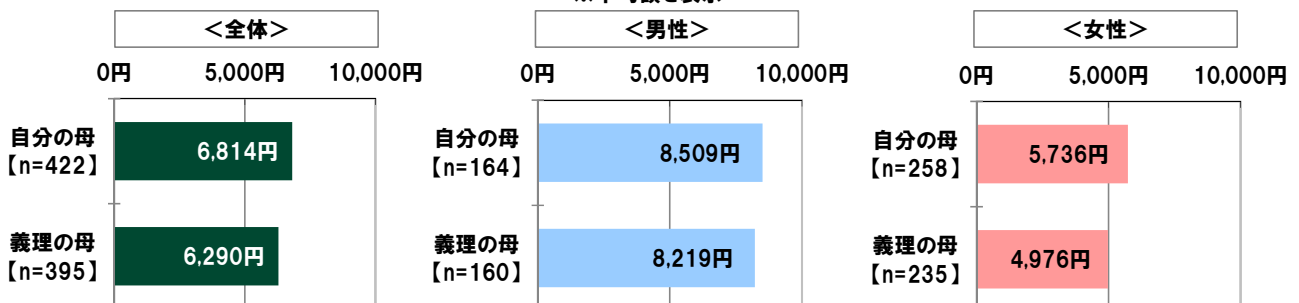


次に、母親のための出費について聞きました。

母の日に自分の母へ贈るプレゼントにかけてもいいと思う金額を聞いたところ、お金をかけてもいいと思う人(422名)の平均額は6,814円でした。また、母の日に義理の母へ贈るプレゼントにかけてもいいと思う金額を聞いたところ、お金をかけてもいいと思う人(395名)の平均額は6,290円となりました。

男女別にみると、プレゼントにかけてもいいと思う金額の平均は、男性では、【自分の母】8,509円、【義理の母】8,219円で290円差、女性では、【自分の母】5,736円、【義理の母】4,976円で760円差でした。夫のほうが、自分の母へのプレゼント予算と義理の母へのプレゼント予算の金額差は小さいようです。

母の日に、自分の母や義理の母へ贈るプレゼントにかけてもいいと思うお金の平均 (各数値入力回答: \_\_円くらい)  
対象:配偶者がおり、それぞれプレゼントにお金をかけてもいいと思う人  
※平均額を表示

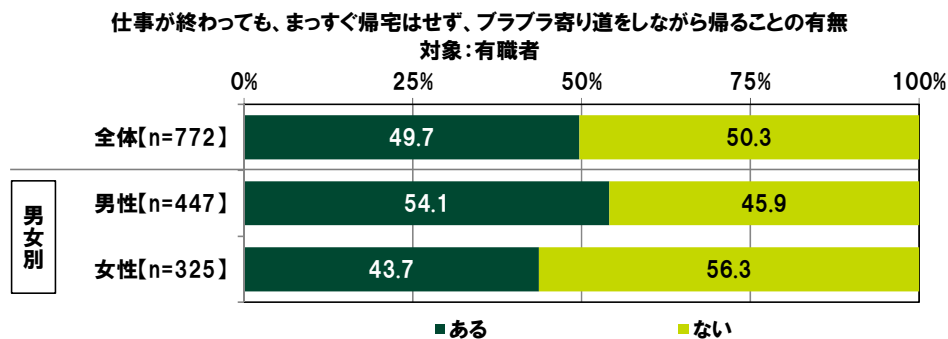


**【消費の新潮流】**

- ▶ 働き方改革の影響？ 30代・40代ビジネスマンの半数以上は、退社後寄り道をする“フラリーマン”
- ▶ フラリーマンの寄り道出費 平均額は1.1万円/月
- ▶ フラリーマンの立ち寄り先 1位「コンビニ」2位「本屋」3位「居酒屋・バー」4位「家電量販店」5位「ファストフード店」

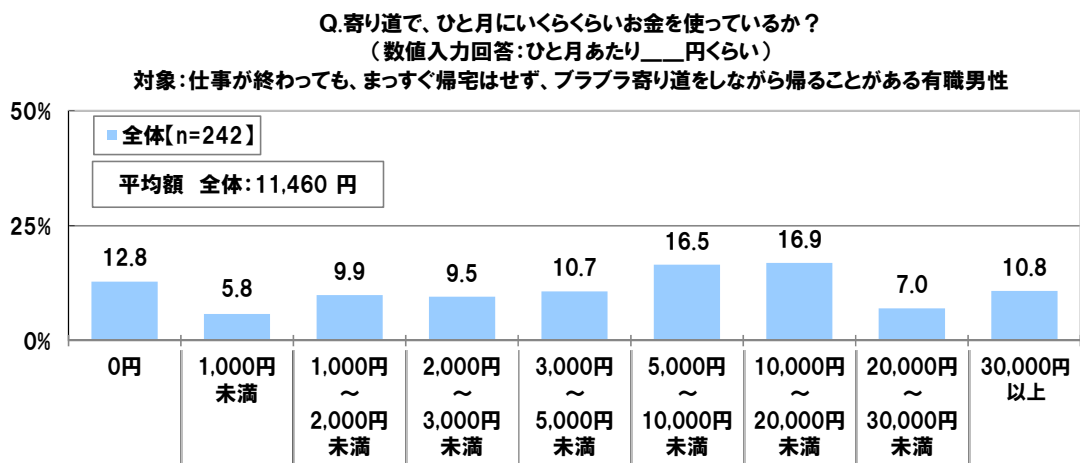
働き方改革の推進で、長時間労働の是正や残業時間の短縮に取り組む企業が増えていますが、これまでよりも退社時間が早くなったという人も多いのではないのでしょうか。そこで、働く30代・40代の退社後の行動について質問を行いました。

有職者(772名)に、仕事が終わっても、まっすぐ帰宅はせず、ブラブラ寄り道をしながら帰ることがあるか聞いたところ、「ある」は49.7%となりました。男女別に「ある」の割合をみると、男性54.1%、女性43.7%で、男性の半数以上が、帰宅前にフラッと寄り道してしまう“フラリーマン”であることがわかりました。



寄り道でいくらかいお金を使っているのでしょうか。

ブラブラ寄り道をしながら帰ることがある男性(242名)に、寄り道で、ひと月に使っている金額を聞いたところ、「5,000円～10,000円未満」(16.5%)や「10,000円～20,000円未満」(16.9%)などに回答が集まり、平均額は11,460円となりました。



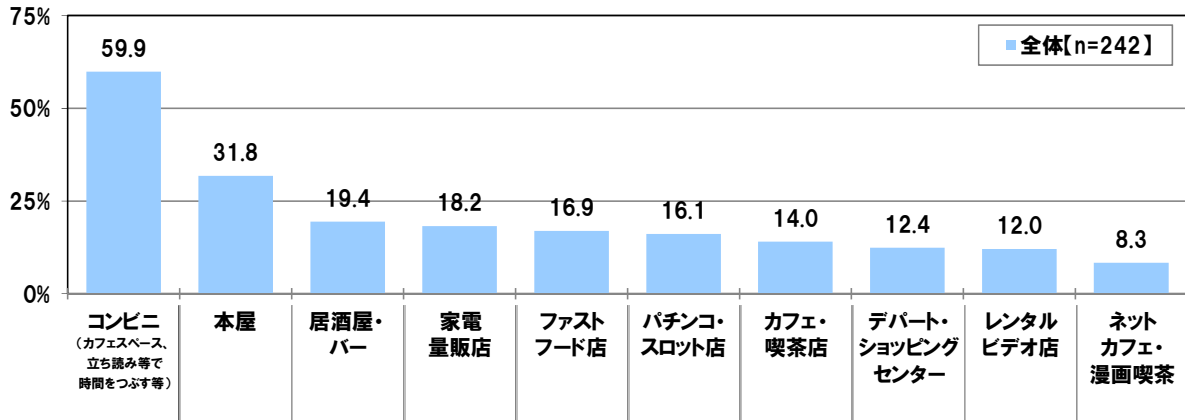


では、どんなところに寄り道している人が多いのでしょうか。終業後の寄り道での立ち寄り先を聞いたところ、「コンビニ(カフェスペース、立ち読み等で時間をつぶす等)」が 59.9%で最も多く、次いで、「本屋」が 31.8%、「居酒屋・バー」が 19.4%となりました。駅前など立ち寄りやすい場所に立地していることが多いコンビニに、つい吸い込まれてしまうという人が多いことがわかりました。また、「居酒屋・バー」が 3 位にランクインしており、帰宅前に一杯ひっかけて帰るという男性は少なくないようです。

Q.仕事が終わっても、まっすぐ帰宅はせず、ブラブラ寄り道をしながら帰るとき、どこに寄ることが多いか？（複数回答）

対象：ブラブラ寄り道をしながら帰ることがある有職男性

※上位10位までを表示



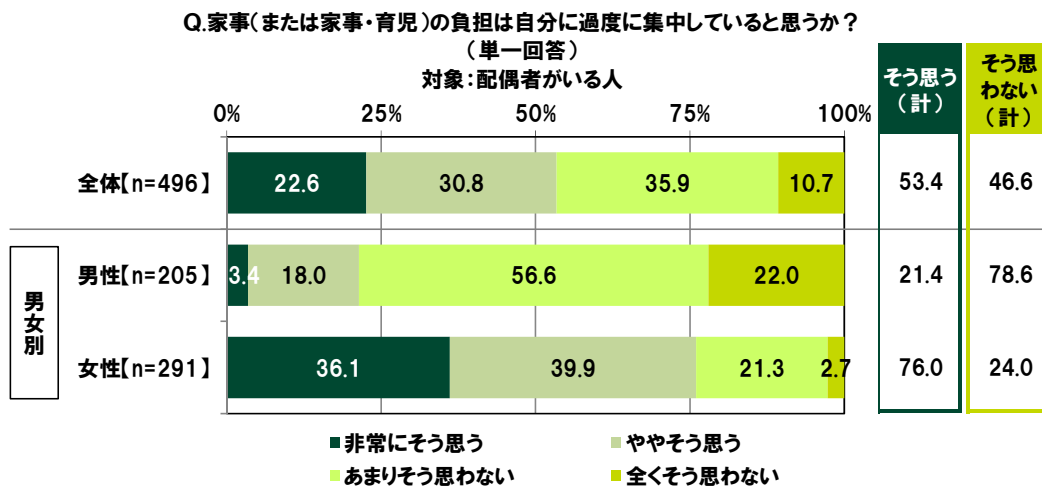
- ▶ “フレighter”満喫の裏側に…妻の8割近くが、家事・育児が自分に過度に集中する“ワンオペ妻”
- ▶ ワンオペ妻の6割半が家事・育児の負担を軽減するためのサービスなどに出費 出費額の平均は6,441円/月

フレighter男性が30代・40代の半数以上であることがわかりましたが、家庭での役割分担についても質問を行いました。

配偶者がいる人(496名)に、家事(または家事・育児)の負担が自分に過度に集中しているか聞いたところ、『そう思う(計)』は53.4%となりました。

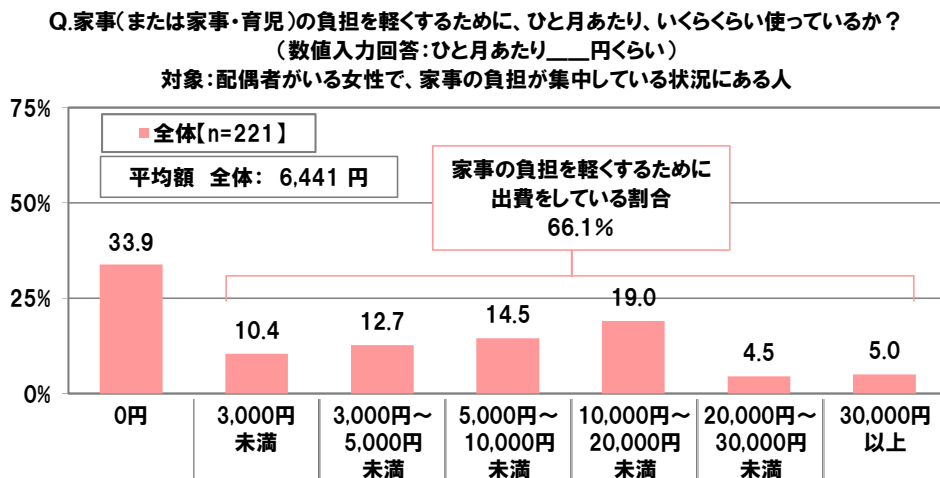
男女別にみると、『そう思う(計)』の割合は女性では76.0%と、男性(21.4%)と比べて50ポイント以上高くなりました。多くの妻が“ワンオペ”で家事や育児をしなければならない状態に置かれているようです。

働き方改革が推進され、退社時間が早くなっても、まっすぐ家に帰らず、余剰時間を寄り道にあててしまう“フレighter”がビジネスマンの半数を超える一方で、一人で家事・育児をこなす女性が依然として多い実情が明らかになりました。



お弁当・お惣菜を利用したり、家事代行サービスや一時保育などを利用したりすることで、家事や育児の負担を軽減することができますが、ワンオペ状況にある妻は、こうしたサービスにどのくらいのお金をかけているのでしょうか。

家事負担が自分に集中していると回答した妻(221名)に、家事(または家事・育児)の負担を軽くするために出費しているか(お弁当・お惣菜の利用、家事代行サービスの利用、一時保育の利用など)聞いたところ、出費している人は66.1%となりました。また、ひと月あたりの金額を聞いたところ、平均額は6,441円となりました。



**【ライフイベントと収入事情】**

- ▶ 30代・40代の半数以上が「結婚しよう」と思える年収は500万円、「出産・子育てをしよう」では年収600万円
- ▶ 結婚のハードルが下がる！40代男性の4割近くが「年収400万円あれば結婚しようと思える」と回答
- ▶ 「年収400万円で自家用車を購入しようと思える」30代女性は半数近く、昨年比8ポイント上昇
- ▶ 「年収400万円で住宅を購入しようと思える」30代女性は2割半、昨年比12ポイント上昇

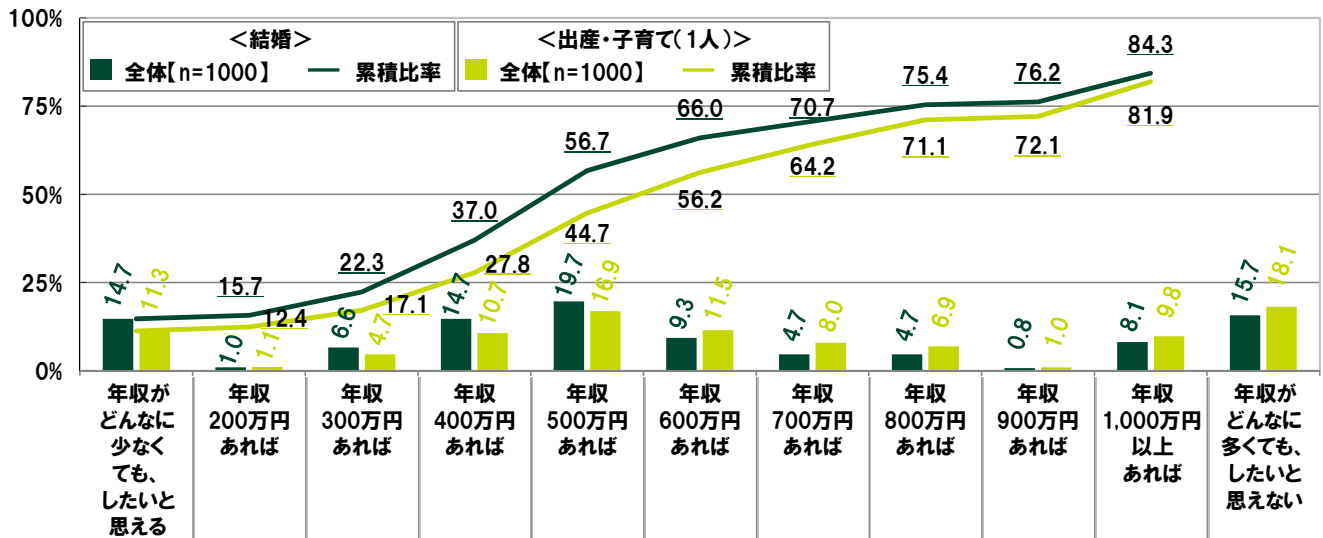
30代・40代は、ライフイベントと年収額に関してどのような意識を持っているのでしょうか。

まず、全回答者(1,000名)に、<結婚>をしようと思える世帯年収額を聞いたところ、年収400万円でしょうと思える割合(「年収400万円あれば」までの合計)は37.0%、年収500万円でしょうと思える割合(「年収500万円あれば」までの合計)は56.7%となりました。30代・40代の半数以上が結婚を考える年収額として、500万円が節目となっていることがわかりました。

次に、<出産・子育て(1人)>をしようと思える世帯年収額を聞いたところ、年収500万円でしょうと思える割合(「年収500万円あれば」までの合計)は44.7%、年収600万円でしょうと思える割合(「年収600万円あれば」までの合計)は56.2%となりました。30代・40代の半数以上が出産・子育てをしようと思える年収として、600万円が節目となっていることがわかりました。結婚よりも出産のほうが、年収額のハードルが高めに設定されているようです。

Q.しようと思える年収(世帯年収)は？(各単一回答)  
 <結婚>と<出産・子育て(1人)>

※全体(30代・40代)[n=1000]



ライフイベントに対する金銭感覚には、年代によって違いがあるのでしょうか。

厚生労働省の調査結果で、1世帯当たりの所得金額の中央値が442万円(※4)となっていることを踏まえ、世帯年収400万円の場合のライフイベントに対する意識を年代別に比較しました。

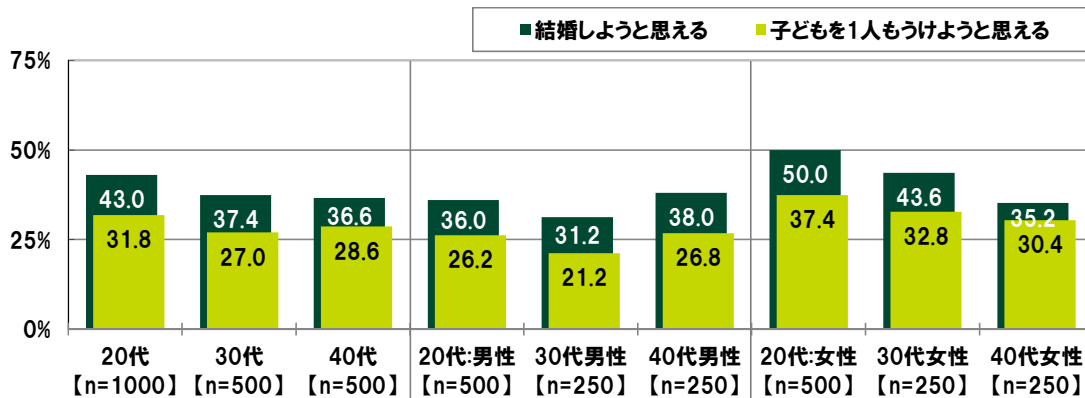
年収400万円で<結婚>をしようと思える割合を年代別にみると、20代43.0%、30代37.4%、40代36.6%となり、年代が上がるにつれて低くなりました。男女・年代別にみると、男性では20代36.0%、30代31.2%、40代38.0%と、30代で低くなるV字を描いていますが、女性では20代50.0%、30代43.6%、40代35.2%と、年代が上がるにつれ低くなっていることがわかりました。

また、年収400万円で<出産・子育て(1人)>をしようと思える割合を年代別にみると、20代31.8%、30代27.0%、40代28.6%となりました。<結婚>と同様、20代と比べて30代・40代のほうが低くなる傾向がみられました。男女・年代別にみると、男性では20代26.2%、30代21.2%、40代26.8%、女性では20代37.4%、30代32.8%、40代30.4%と、いずれの年代でも男性のほうが女性より低くなりました。子どもを持つと思う年収については、男性のほうがハードルを高く設定しているようです。

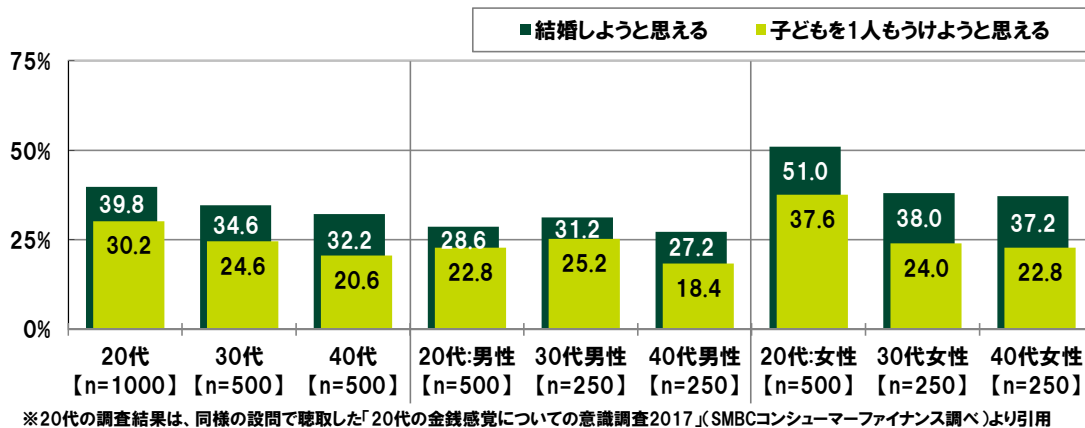
昨年(2018年)の調査結果と比較すると、年収400万円で<結婚>しようと思える割合は、20代男性で7.4ポイントの上昇(2018年28.6%→2019年36.0%)、40代男性で10.8ポイントの上昇(2018年27.2%→2019年38.0%)となりました。結婚をしようと思えるハードルについては、20代男性や40代男性で低くなっているようです。

※4:厚生労働省「平成29年 国民生活基礎調査の概況」より

世帯年収400万円で結婚や出産・子育て(1人)をしようと思える割合



【2018年調査結果】世帯年収400万円で結婚や出産・子育て(1人)をしようと思える割合

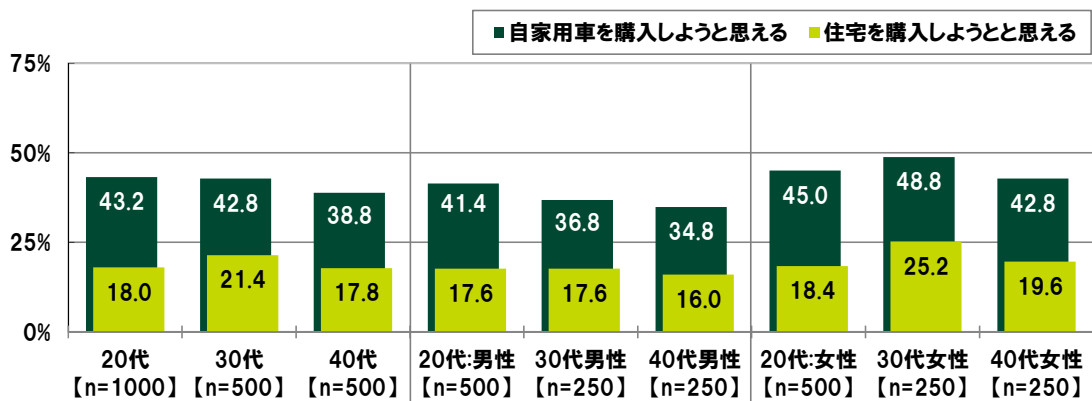


自家用車や住宅といった高額な買い物については、どのように考えている人が多いのでしょうか。

<結婚>、<出産・子育て(1人)>と同様に、年収400万円であろうと思える割合を年代別にみると、<自家用車>では、20代43.2%、30代42.8%、40代38.8%と、年代が上がるにつれ低くなる傾向がみられました。他方、<住宅>では、20代18.0%、30代21.4%、40代17.8%と、30代が最も高くなりました。

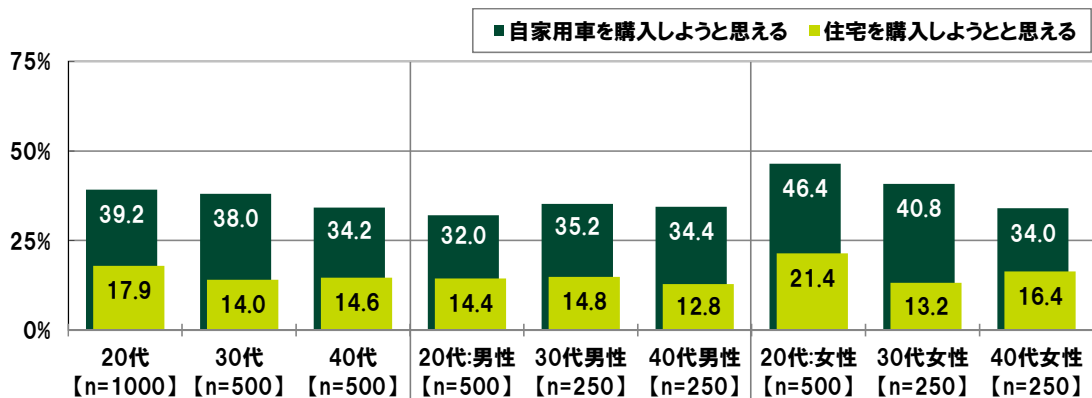
昨年(2018年)の調査結果と比較すると、<自家用車>では、20代男性が9.4ポイントの上昇(2018年32.0%→2019年41.4%)、30代女性が8.0ポイントの上昇(2018年40.8%→2019年48.8%)、40代女性が8.8ポイントの上昇(2018年34.0%→2019年42.8%)となりました。また、<住宅>では、30代女性が12.0ポイントの上昇(2018年13.2%→2019年25.2%)となりました。<自家用車>と<住宅>のいずれでも30代女性が10ポイント前後上昇しており、大きな買い物の購入に対して前向きになっていることがうかがえました。

世帯年収400万円で自家用車や住宅を購入しようと思える割合



※20代の調査結果は、同様の設問で聴取した「20代の金銭感覚についての意識調査2018」(SMBCコンシューマーファイナンス調べ)より引用

【2018年調査結果】世帯年収400万円以上で自家用車や住宅を購入しようと思える割合



※20代の調査結果は、同様の設問で聴取した「20代の金銭感覚についての意識調査2017」(SMBCコンシューマーファイナンス調べ)より引用

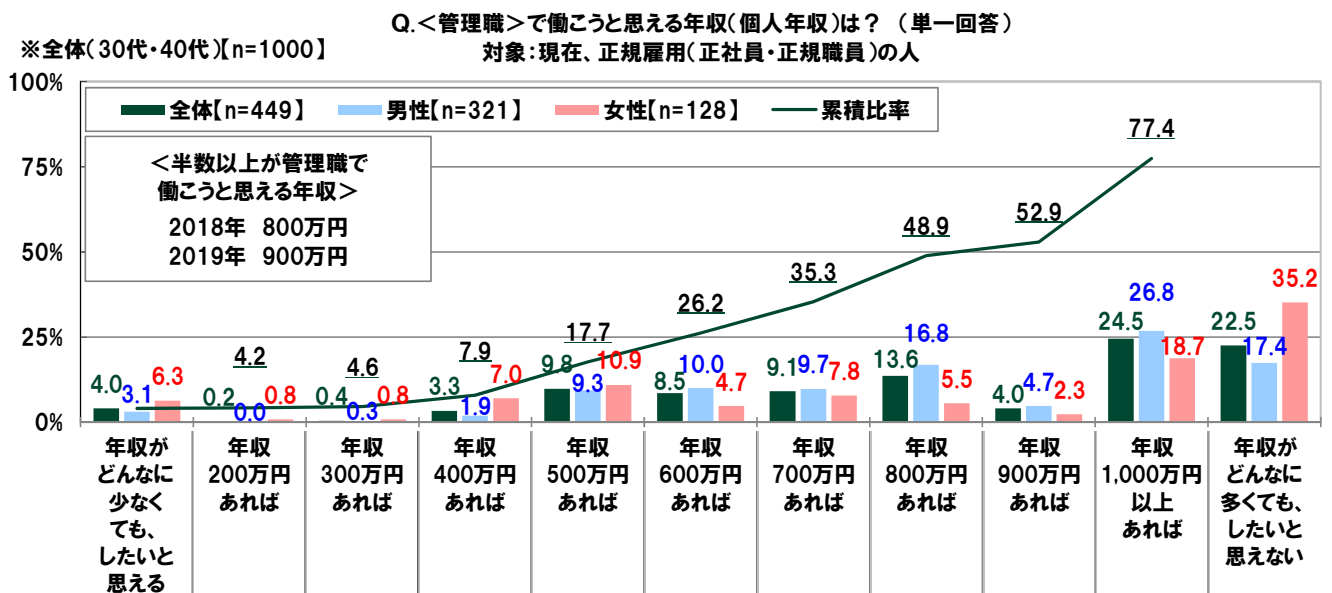
▶ **管理職敬遠の傾向強まる 正規雇用者の半数以上が管理職で働こうと思える年収は900万円、昨年比100万円上昇**

年収額と仕事・働き方のバランスについては、どのように考えている30代・40代が多いのでしょうか。

現在、正規雇用(正社員・正規職員)の人(449名)に、<管理職>で働こうと思える年収(個人年収)額を聞いたところ、「年収1,000万円以上あれば」(24.5%)に最も多くの回答が集まりました。<管理職>で働こうと半数以上が思えるのは、年収900万円(「年収900万円あれば」までの合計52.9%)でした。30代・40代が責任の重い管理職という働き方に見合っていると思える節目は年収900万円となっていることがわかりました。

男女別にみると、女性では「年収がどんなに多くても、したいと思えない」が35.2%で最多回答となりました。管理職を敬遠する女性は少なくないようです。

また、昨年(2018年)の結果と比較すると、半数以上が管理職になりたいと思える年収額は、2018年800万円→2019年900万円と、上昇しました。管理職敬遠の傾向が強まり、管理職に見合う年収額を高額に見積もっている30代・40代が増えているのではないのでしょうか。

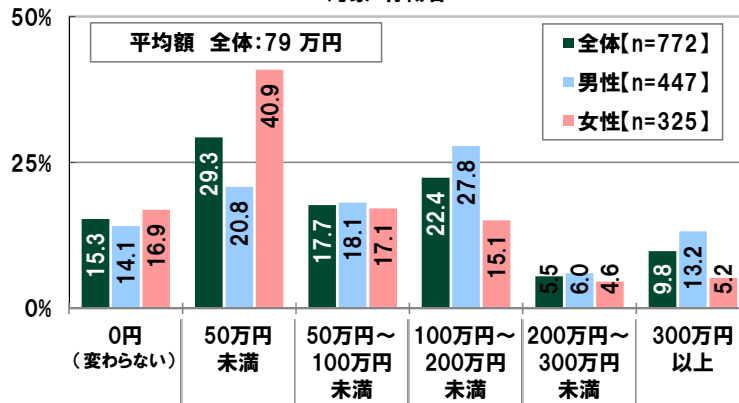


- 転職での年収アップはいくらを期待？ 40代男性の平均は105万円
- 転職での年収ダウンはどこまで許容できる？ 3人に2人が「許容できない」、許容額の平均は18万円

新天地を求めて“転職”という選択肢を選ぶとき、30代・40代はどのような年収条件を求めているのでしょうか。有職者(772名)に、転職をしたら年収がいくらアップすることを期待するか聞いたところ、「50万円未満」(29.3%)や「100万円～200万円未満」(22.4%)に回答が集まり、平均額は79万円となりました。

男女・年代別に平均額をみると、最も高くなったのは40代男性で105万円でした。男性の場合、40代での転職では、大きく年収を増やしたいと考える人が多いようです。

Q.転職をしたら、年収がいくらアップすることを期待するか？(単一回答)  
対象:有職者



■年収アップを期待する金額の平均

男女・年代別	平均額
全体(n=772)	79万円
30代男性(n=223)	84万円
40代男性(n=224)	105万円
30代女性(n=154)	59万円
40代女性(n=171)	55万円

職務内容や勤務地、勤務時間など、年収以外に譲れない条件があるとき、転職によって年収が減少してしまうことも考えられますが、転職の際に、年収がいくらまでのダウンであれば許容できるか聞いたところ、「0円(変わらない)」(65.7%)に最も多くの回答が集まり、転職での年収ダウンは避けたいと考えている30代・40代が多数派であることがわかりました。平均額をみると、18万円でした。

Q.転職の際に、年収がいくらまでのダウンであれば許容できるか？(単一回答)  
対象:有職者



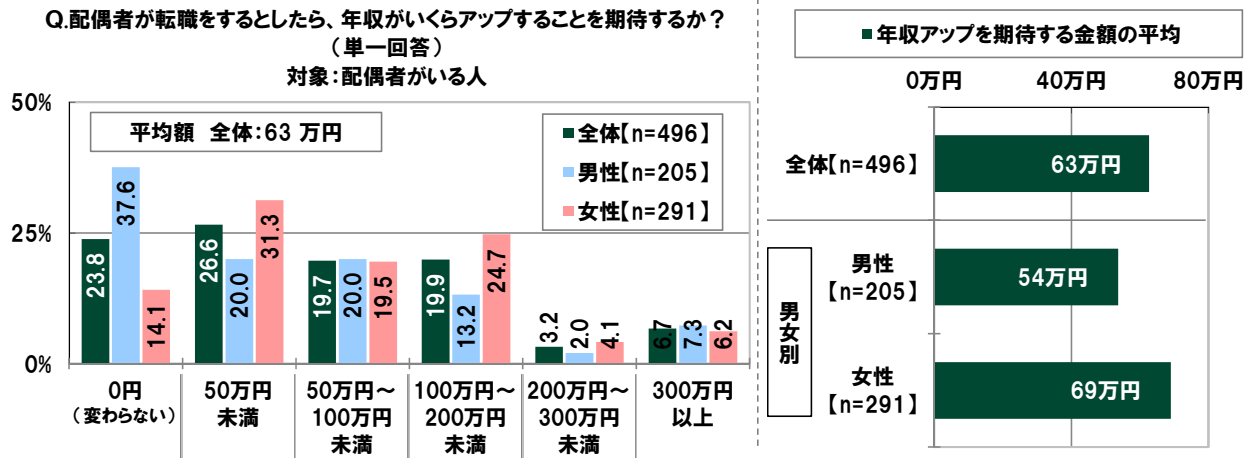
■年収ダウンを許容できる金額の平均

男女・年代別	平均額
全体(n=772)	18万円
30代男性(n=223)	20万円
40代男性(n=224)	30万円
30代女性(n=154)	12万円
40代女性(n=171)	6万円

≫ 夫はプレッシャー 夫の転職で妻が期待する年収アップ額は平均 69 万円  
夫が転職で年収ダウン 妻が許容できる年収ダウン額は平均 12 万円

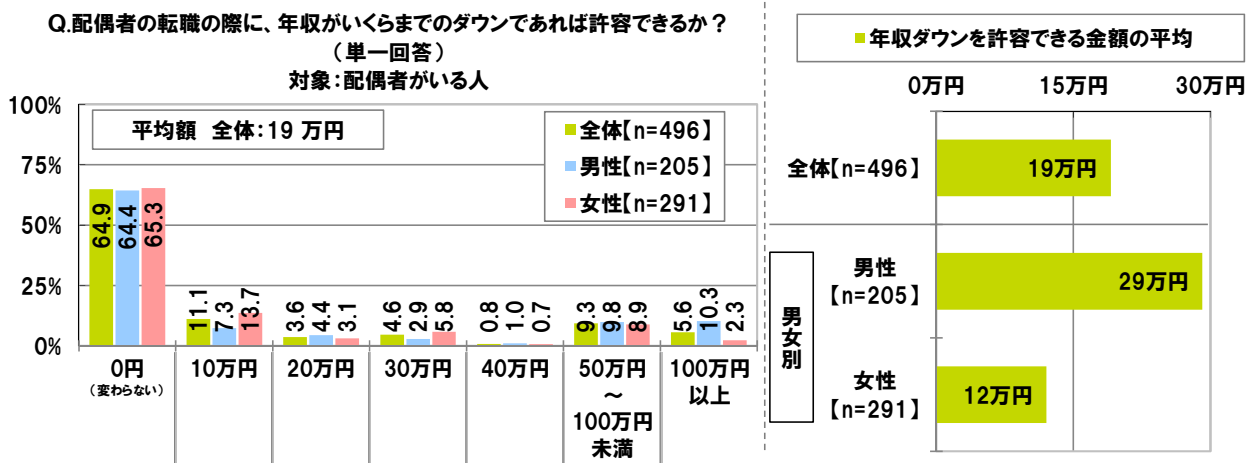
続いて、配偶者がいる人(496名)に、配偶者が転職をするとしたら、年収がいくらアップすることを期待するか聞いたところ、「0円(変わらない)」(23.8%)や「50万円未満」(26.6%)に回答が集まり、平均額は63万円でした。

男女別に平均額をみると、男性54万円、女性69万円と、女性のほうが15万円高くなりました。夫が転職する際には、年収アップに期待する妻が多いようです。



また、配偶者の転職の際に、年収がいくらまでのダウンであれば許容できるか聞いたところ、「0円(変わらない)」(64.9%)に最も多くの回答が集まり、平均額は19万円でした。

男女別に平均額をみると、男性29万円、女性12万円と、男性のほうが17万円高くなりました。転職する場合、年収ダウンに寛容なのは、妻より夫のようです。

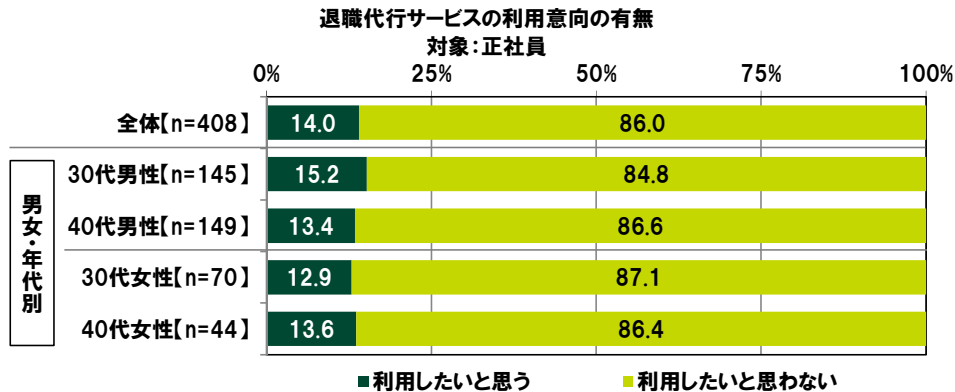




>> 話題の退職代行サービス 正社員の利用意向率は14%、支払ってもいい金額は平均1.9万円

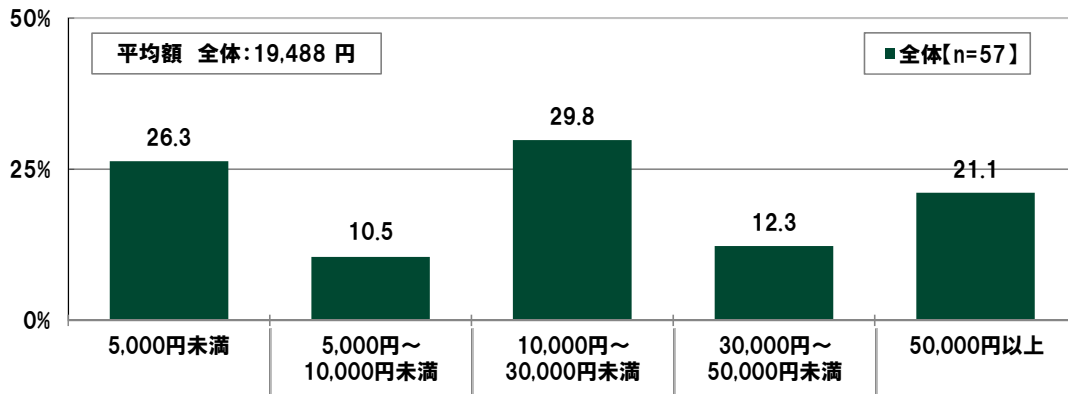
最近、会社を退職したい本人に代わって、退職に必要な会社への連絡を行ってくれる“退職代行サービス”が話題となっています。

そこで、現在、正社員の人(408名)に、このサービスを利用したいと思うか聞いたところ、「利用したいと思う」は14.0%となりました。男女・年代別にみると、「利用したいと思う」の割合が最も高くなったのは30代男性(15.2%)でした。自分からは会社に退職希望を伝えにくいと感じている30代男性は少なくないのではないのでしょうか。



また、利用したいと思う人(57名)に、退職代行サービスに支払ってもいいと思う金額を聞いたところ、「5,000円未満」(26.3%)や「10,000円～30,000円未満」(29.8%)などに回答が集まり、平均額は19,488円となりました。

Q.退職代行サービスにいくらくらい支払ってもいいと思うか？  
 (数値入力回答：\_\_円くらい)  
 対象：正社員で、退職代行サービスの利用意向がある人



## 《調査概要》

- ◆調査タイトル : 30代・40代の金銭感覚についての意識調査 2019
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする  
30歳～49歳の男女
- ◆調査期間 : 2019年1月7日～9日
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 1,000サンプル  
(有効回答から男女×30代前半・後半、男女×40代前半・後半が均等になるように抽出)
- ◆調査協力会社 : ネットエイジア株式会社

## ■■報道関係の皆様へ■■

本リリースの内容の転載にあたりましては、  
「SMBC コンシューマーファイナンス調べ」と付記のうえ、  
ご使用いただきますよう、お願い申し上げます。

URL: <http://www.smbc-cf.com/binca-station/antenna/11.html>

## ■■本調査に関するお問合せ窓口■■

SMBC コンシューマーファイナンス株式会社

担当 : 広報 CSR 部 尾形・佐藤綾花

TEL : 03-3543-7360

Eメール : corporate\_info@smbc-cf.com

受付時間: 9時00分～18時00分(月～金)

## ■■会社概要■■

会社名 : SMBC コンシューマーファイナンス株式会社

(英訳名 SMBC Consumer Finance Co., Ltd.)

設立 : 1962年(昭和37年)3月20日

代表者名: 幸野 良治

所在地 : 東京都中央区銀座四丁目12番15号

事業内容: 貸金業・保証業